

整形外科

1. スタッフ

科長（教授）	秋山 達
副科長（助教）	望月 貴夫
医員（助教）	戸田 義夫
シニアレジデント	2名

2. 診療科の特徴

整形外科的腫瘍である骨軟部腫瘍は増加傾向がさらに進んでいる。特に整形外科で扱う悪性腫瘍は肉腫に区分され、稀な疾患で化学療法も一般の癌とは大きく異なる点がある。全国的にも扱うことができる施設は少なく、DPC データを参照すると、2019年度には骨軟部悪性腫瘍手術件数は国立がん研究センター中央病院、癌研究会附属有明病院に次いで全国第3位である。これからも引き続き日本トップレベルの症例数と内容で骨軟部悪性腫瘍診療を行い、人材育成を行っていく予定である。

当科では骨軟部悪性腫瘍に並んで脊椎疾患を精力的に扱っている。腫瘍と脊椎の境界領域として転移性脊椎腫瘍が挙げられるが、診療科として転移性腫瘍など難易度が高い症例も積極的に扱っている。

当科も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、クラスターが発生したりして受け入れなどに苦慮したり、症例数が減少したりすることもあったがようやく安定して受け入れることができるようになり、症例数も回復傾向に入ってきた。これからも地域の最後の砦としてだけでなく、教育機関としてもより発展するべく、腫瘍と脊椎を診療の柱として、幅広く対応していく。

・認定施設

日本整形外科学会認定専門医制度研修施設

・専門医並びに認定医

日本整形外科学会専門医	秋山 達
	望月 貴夫
	戸田 義夫
日本リハビリテーション学会専門医	
	秋山 達
癌治療学会認定医	秋山 達

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数	722人
再来患者数	6,383人

2) 入院患者数（目的別）

目的	患者数
手術	310
化学療法	68
検査	81
合 計	459

3-1) 手術症例病名別件数

手術	件数
頰椎	22
胸椎	11
腰椎	38
人工股関節置換術	0
人工膝関節置換術	1
大腿骨頸部骨折	29
その他骨折	24
関節鏡視下手術	2
末梢神経	0
生検術	30
良性腫瘍	83
悪性腫瘍	53
手の外科	0
切断	0
その他	17
外来手術	0
合計	310

2) 化学療法症例・数

20症例・68回

3) 主な処置・検査

神経ブロック	40件
脊髄造影	41件

4. カンファランス

症例カンファ 毎週火・金曜日
17:00-19:00

5. 研究・学会活動

脊索腫前向き登録研究など国際共同研究や、骨盤悪性腫瘍術後機能回復に関する国内多施設研究などいくつかの共同研究を引き続き行っており、論文投稿準備中である。

また、研究会も複数主催・協力してい

る。秋山は“日本骨軟部腫瘍研究会”幹事、“関東骨軟部基礎を語る会”幹事、“さいたま外傷一匠の会”幹事、“日本骨盤手術手技研究会”の代表幹事、“埼玉骨軟部腫瘍研究会”幹事、“埼玉整形外科手術手技研究会”幹事などを行っている。

2024年度の目標等

骨軟部悪性腫瘍が希少がんであるため治療ができる医師が少ないことは繰り返し述べている通りであるが、後進の育成や地域との積極的な連携を進めながら診療レベルをさらに充実させていく予定である。

さらに転移性骨腫瘍治療など、担がん患者に対する積極的な整形外科的治療の需要が急増しており、これらががん口コモ患者に対しても診療科や施設を超えての連携を深めて積極的に対応していく予定である。

さいたま市全体を見ても以前から脊椎専門医が少ないことが懸念されていた。望月を中心に自治医大並びに東大と連携しながら脊椎診療を積極的に拡大させていく予定である。転移性脊椎腫瘍についてもこれまで以上に積極的な対応を進めていく所存である。

各科連携・病病連携・病診連携をさらに進めてより良い医療ができるように力を尽くしたいと考えております。

今後とも宜しくお願い致します。